【樹木の部屋】

イヌツゲ（モチノキ科モチノキ属　Ilex crenata）

和名：イヌツゲ(犬黄楊)　別名：ニセツゲ、ヤマツゲ、コバモ、ヤドメ

英名：Japanese Holly、Box-leaved Holly

モチノキ目　常緑低木　　原産地：日本、朝鮮半島

花言葉：　魅惑、堅固　　花色：　白、淡黄

← 写真-１　イヌツゲの剪定樹形(玉散らし仕立て)
撮影日：2020 年 04 月 26 日
撮影場所：桜井市郊外にて
撮影者：M　さん

↘ 写真-２　イヌツゲの小枝
撮影日：2020 年 04 月 26 日
撮影場所：桜井市郊外にて
撮影者：M　さん

← 写真-３　イヌツゲの幹
撮影日：2020 年 04 月 26 日
撮影場所：桜井市郊外にて
撮影者：M　さん

← 写真-４ イヌツゲの葉
撮影日：2020 年 04 月 26 日
撮影場所：桜井市郊外にて
撮影者：Ｍ　さん

←↗ 写真-５、６ イヌツゲの新芽
撮影日：2020 年 04 月 26 日
撮影場所：桜井市郊外にて
撮影者：Ｍ　さん

もっとも普通に見られる植木の一つで、刈り込みに強いため垣根や玉散らし仕立て(写真)とすることが多く、トピアリーの素材にも適しています。

また、福岡県新宮町相島などでのコウイカ漁でよく利用されているそうです。カゴにイヌツゲの枝葉を結びつけて海に入れることで、イカ(コウイカ)が枝葉に卵を産みつけにくるためイヌツゲのことを通称「イカシバ」と呼んでいるそうです。

生垣にすると、幅が薄くても遮蔽性を高くできるので狭い場所にも使え、整然とした雰囲気に仕上がります。耐陰性・耐湿性・耐風性に優れ丈夫な木ですが、風通しが悪いと生育が悪くなり、害虫も発生しやすくなります。潮風に比較的強いので海に近い場所の植栽にも適しています。

葉は小さく、楕円形、厚みがあり、つやがあります。縁には丸い鋸歯があり、互生します。幹は灰褐色。雌雄異株です。花期は 5～6 月頃で、果実は黒く熟します。乾燥に弱く、根元に西日が当たらないようにする必要があります。また、枝枯病あるいは乾燥で枝が部分的に枯れ込むことがあります。

見た目と名前がツゲ(Buxus microphylla var. japonica)とよく似ているため、ツゲとイヌツゲは同じ仲間と思われがちですが、ツゲはツゲ科ツゲ属でまったく類縁関係はありません。ツゲはたいへん成長が遅く、緻密でなめらかなツゲ材として櫛や印鑑の高級材料となるのに対し、イヌツゲはツゲよりも材の質が劣るという意味で「犬(イヌ)」の名がつけられたと言われています。葉はツゲが対生であるのに対し互生です。

＜ちょっと一言＞

＊イヌツゲの仲間に、マメツゲとキンメツゲなどがあります。

・マメツゲ

背があまり高くならず、葉の縁が裏側に丸くなる品種。生垣のほか、グランドカバーや境栽に適しています

・キンメツゲ

新芽が黄色になる園芸品種。夏以降は緑色になります。イヌツゲより耐寒性など少し性質が劣ります。イヌツゲよりも葉が細かく、小枝が多いため、密度の高い垣根を作ることができます。また名前のとおり新芽の黄色がイヌツゲよりも際立っていますが、イヌツゲも新芽は黄色です。